

人口減少社会で見た私たちの地域の現実と課題

人口減少と超高齢化が進む中、常に大切さが問われる「地域のつながり」。多くの人が大切だと認識しているものの、薄れつつある地域のつながりの現状と今後の地域活動のあり方について考えていきます。



現代のライフスタイルに合った新たな地域活動 今までの地域活動と補い合うことで、私たちの生活はより豊かになる

うことが当たり前のようにできる信頼関係が築かれていました。しかし、高度経済成長期を経て核家族化が進み、社会全体で私たちの生活を守る社会保障制度が充実したこともあり、地域で支え合う精神が少しずつ薄れていきました。その結果、地域活動に参加する人が減少し、担い手不足につながったと考えられています。

地域活動への感謝と課題

このような課題がある中で、私たちがの日常は、自治会・行政区や子ども会、消防団などたくさんの地域活動によって支えられています。本来担い手となるはずの人たちは、これらの活動についてどのように考えているのでしょうか。

今年2月に実施した「市民愛着度調査」で、地域活動に関するアンケートを行いました(図2)。その結果によると、約5割の人が地域活動をしている人に対して感謝の気持ちを持っていることが分かります。しかし、地域活動に参加したいという人は、約3割しかいません。この背景には何があるのでしょうか。

総務省が2007年に行った意識調査(8ページ・図3)によると、30代半の半数の人たちが「仕事が忙

しくて時間がないから地域活動に参加していない」と答えています。この結果から、地域活動の大切さは認識しているものの、参加することが難しい現状にあるということが垣間見えます。

これからの地域のミライ

最近では、現代のライフスタイルに合った新たな地域活動が少しずつ広がってきています。それは誰かに求められるものでなく、自身が楽しみながら継続することのできる新しい形の活動です。このような活動が従来の地域活動と補い合うことで、私たちの生活はより豊かなものに変化していくのではないのでしょうか。

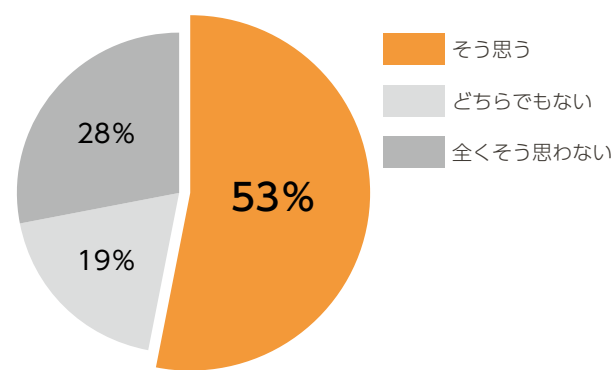
新しい形の地域活動は「空いた時間の有効活用」「友達に誘われた」など、地域ということよりも自己本位の理由がきっかけで始まります。しかし、この活動を継続していくうちに多くの人と交流することを楽しく感じられるようになります。

それに加えて、他者から共感されたり、感謝の気持ちを受け取ったりすることで築かれる「地域とのゆるいつながり」が、私たちの周りで増えていくこと。これが、これからの地域の未来にとって大切なことと言えるでしょう。

図2：古河市の地域活動についてのアンケート

出典：市民愛着度調査(古河市) [R2.2実施・計468人]

Q1 地域活動をしている人に感謝している



Q2 地域活動に参加したい

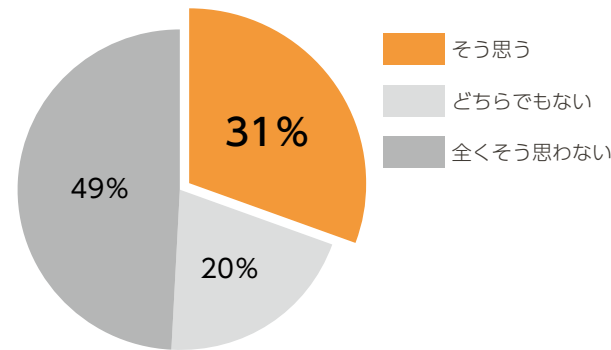
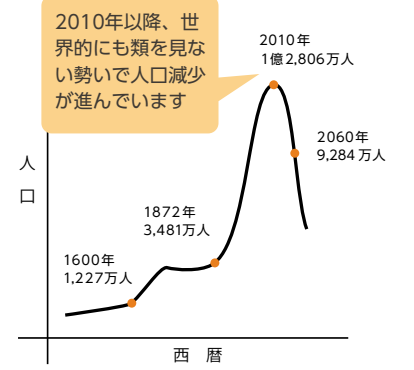


図1：日本の人口の歴史的推移



日 本経済が右肩上がり成長していた時代に、誰が現在直面している人口減少を想像できたでしょうか。日本の人口は、2010年をピークに減り続け、2060年には、約9千300万人になると推計されています(図1)。

誰もが想像できない勢いで進む人口減少に直面する中で、見えてきた課題があります。それは、今まで地域の担い手として活動してきた人たちの高齢化や担い手不足により、次世代への活動の継承が難しくなってきたという課題です。

この状況を解決する方法を多くの人が模索していますが、まだに見つけられていません。

時代と共に薄れたつながり

昔の日本は農耕社会であり、隣人や地域同士で支え合う相互扶助の人間関係ができていました。そのため、子どもや高齢者を地域で支え合